シリーズ

森林環境譲与税を活用した取組
～地球を潤す森林環境保全へのプロセス～

Vol. 5

長野県 伊那市

「50年の森林（もり）ビジョン」の達成に向けて

1 伊那市の森林・林業の概要

伊那市は、長野県の南部に位置し、総面積は66，993haです。南アルプスと中央アルプスの2つのアルプスに抱かれ、東部に南アルプス国立公園、三峰川水系県立公園を、西部に中央アルプス県立公園を有し、自然に恵まれた地域です。

森林面積は55，074ha、森林率は82％で、里山からアルプスに至るまで、多種多様な森林が広がっています。

約3万3千haある民有林の多くはアカマツ林とカラマツ林で構成されていますが、森林所有者の高齢化等による山離れや有害鳥獣による林業・農業への被害の増加、松くい虫被害の蔓延等の課題も抱えており、伊那市の森林の将来像を描いた上で諸々の課題に取り組んでいくことが求められていました。

2 伊那市50年の森林（もり）ビジョン

平成28年2月に、伊那市は「山（森林）が富と雇用を支える50年後の伊那市」を基本理念とした「伊那市50年の森林（もり）ビジョン」を策定しました。また、本ビジョンの実現に向けて、市民を主役とした自立的な経済の循環を構築し、社会が森林を育て、森林が社会を豊かにする「ソーシャル・フォレストリー都市」を宣言しました。

平成30年度には、林野庁から林業成長産業化地域創出モデル事業の1つに採択され、5年間にわたって、森林経営管理制度の推進、森林資源の循環利用及び木材需要の創出に取り組んでいます。これらの取組に加えて、森林環境譲与税（令和3年度譲与額：61，232千円）を活用して、都市部との連携や路網整備を実施しています。

3 友好都市新宿区によるカーボンオフセット事業

東京都新宿区が抱えている二酸化炭素の排出削減の問題と、伊那市が抱える森林整備の遅れの問題を解決するため、平成20年に、「新宿区と伊那市との地球環境保全のための連携に関する協定書」を締結しました。同協定では、伊那市内の森林の育成・保護、森林育成を通じた環境学習の実施、カーボンオフセット事業の実施等を行うことになっています。

新宿区には、協定締結時から間伐を中心に市有林の整備を進めていただいており、過去13年間で約3百haを整備しました。また、整備した森林は「新宿の森」として、毎年、新宿区の小学生や区民の皆さんに森林体験等の場として活用して頂き、都会では味わえない貴重な体験ができると好評を頂いています。令和3年度には、新宿区に譲与された森林環境譲与税15百万円が本取組に活用されました。

写真1 新宿の森 カーボンオフセット事業

4 木育を介した都市交流

伊那市では、平成24年度から、市内で生まれた赤ちゃんに、木で作ったおもちゃを誕生祝い品として贈ってきました。

伊那市の友好都市である愛知県知立市は、本市の取組をきっかけとして、令和2年度から森林環境譲与税を活用して、伊那市の木材を市内の木工職人が加工した積み木を、新生児にプレゼントする「プレイウッド事業」を開始しました。

積み木には、伊那市のアカマツを

図 伊那市50年の森林（もり）ビジョン

薄く削った経木のメッセージカードを添え、「木を通じて、子供たちに豊かな情緒を育み、健やかに成長されるように」との願いを伝えています。令和3年度には、知立市に譲与された森林環境譲与税350万円が本取組に活用されました。

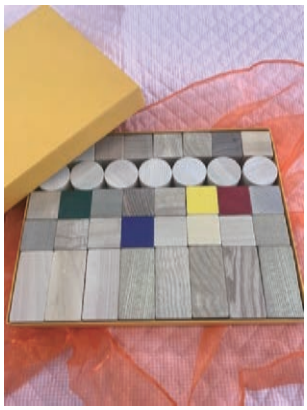

写真2 伊那市の木材を使った知立市の木のおもちゃ

5 林業の基幹となる林道開設（令和3年度決算額：20百万円）

伊那市は、森林環境譲与税を活用して、将来的な森林整備に必要となる新規の林道開設（林業専用道規格相当幅員3.6m）を行っています。令和元年度から、市の西部（中央アルプス山麓）において新規林道の開設に着手しました。勾配が35度を超える箇所もあり、急峻な地形と粘土質の軟弱土に苦労していますが、長大な切土法面には厚層基材吹付工を施すなど、崩れにくい道となるよう配慮しています。

また、令和2年度からは、市の東部（南アルプス山麓）でも、同じ規格での林道開設に着手しました。こちらは地形も比較的緩くなっていますが、沢を複数回横断するので土砂流出への対応に苦労しています。

いずれの路線も、令和6年度末の完成を目指しており、カラマツをはじめとした森林資源の搬出のためにフル活用する予定です。

6 今後に向けて

伊那市へ配分される森林環境譲与税額は、令和4年度で約7千万円、令和6年度以降は約9千万円と見込まれています。伊那市では、今後も森林環境譲与税を活用して、森林整備を推進するとともに、木育を含めた木材利用の推進や、都市部との森林整備・木材利用を介した交流に取り組む予定です。

写真3 林道開設（竣工）